

令和3年度 全国学力・学習状況調査（東野中学校の結果）

令和3年5月27日に横浜市立中学校3年生(約2万3千人)を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と生徒の意識に関する結果の概要をお知らせします。

◎ 各教科の調査結果から見る東野中学校の状況

- ・国語において、全国の平均正答率と比べ、同等の状況です。
- ・数学において、全国の平均正答率に比べ、2ポイント低い状況が見られました。

【平均正答率(%)】	国語	数学
東野中学校	65	55
全国との差	±0	-2
横浜市	65	59
神奈川県	65	58
全 国	65	57

※ 全国の平均正答率については、文部科学省の指示のもと整数値に直して表しています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

◎ 各教科の調査結果から見て特徴のある設問

全国の平均正答率との差が4ポイント以上あった主な設問は、次のとおりです(ポイントは整数値)。

【国 語】

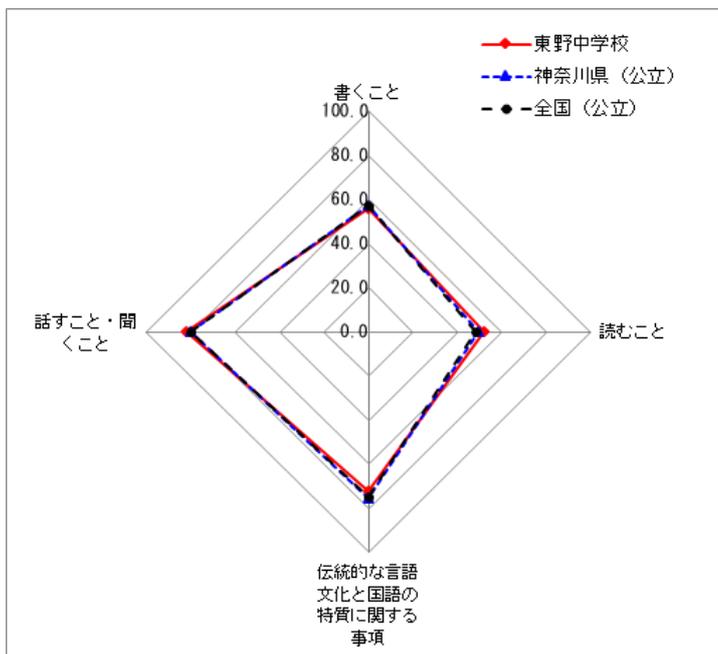
- ・「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」が4ポイント高い。
- ・「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」が4ポイント高い。
- ・「文脈の中における語句の意味を理解する」が4ポイント高い。
- ・「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」が10ポイント高い。
- ・「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」が5ポイント低い。
- ・「相手や場に応じて敬語を適切に使う」が10ポイント低い。
- ・「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」が7ポイント低い。

【数 学】

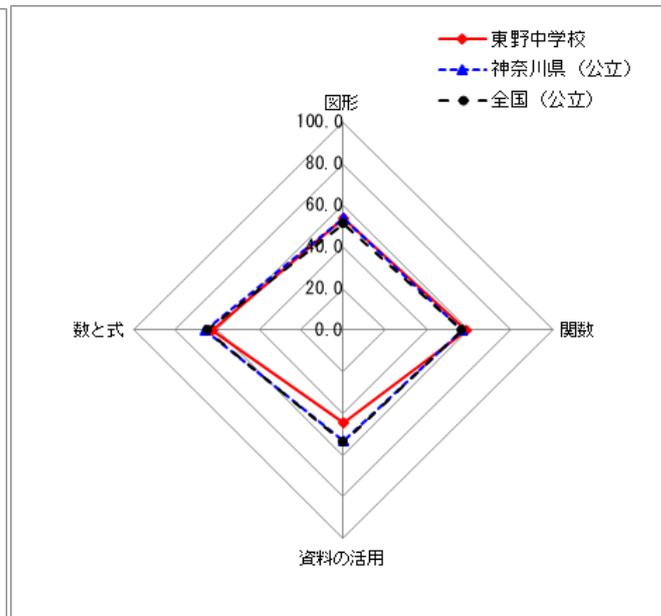
- ・「関数の意味を理解している」が5ポイント高い。
- ・「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」が7ポイント高い。
- ・「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」が5ポイント高い。
- ・「具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる」が11ポイント低い。
- ・「与えられたデータから中央値を求めることができる」が29ポイント低い。
- ・「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」が5ポイント低い。
- ・「ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる」が7ポイント低い。
- ・「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」が4ポイント低い。

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

国語



数学



<全国学力・学習状況調査結果チャート>

